

## 平成24年度第2期えるのす連続講座～女性大学～

### 社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
9/25 (火)	子育てにやさしい社会とは	藤女子大学人間生活学部保育学科教授 木脇奈智子
10/2 (火)	地域包括ケアとまちづくり	北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科教授 杉岡直人
10/9 (火)	介護保険制度のこれまでとこれから	札幌学院大学人文学部人間科学科准教授 新田雅子
10/16 (火)	乳利用の民族誌	酪農学園大学農食環境学群食と健康学類教授 石井智美
10/23 (火)	藤田嗣治と愛書都市パリ —花ひらく挿絵本の世紀—	北海道立近代美術館学芸部学芸第二課主任学芸員 土岐美由紀
10/30 (火)	映画は障害者をどう語ってきたか —身体障害から発達障害まで	札幌学院大学人文学部人間科学科准教授 二通諭
11/6 (火)	正常細胞ががん細胞を駆逐する	北海道大学遺伝子病制御研究所分子腫瘍分野教授 藤田恭之
11/20 (火)	大正期の女性作家・田村俊子を中心に	札幌大学法学部法学科教授 山崎真紀子
11/27 (火)	韓国の社会と女性	北海学園大学経済学部地域経済学科准教授 辻弘範
12/5 (水)	現在（いま）を知る	北海道新聞社論説委員 川嶋信義

平成24年9月25日（火）

#### 子育てにやさしい社会とは

藤女子大学人間生活学部保育学科教授 木脇奈智子



少子化が進行する現代、子育て支援にも「男女共同参画」の視点が必要です。講義では、家族の変化と子育ての変化、子育てに関する言説の変容、日本における男性の子育ての動向、また、多様化する子育て支援の現状と課題などについて、数々の調査や事例をふまえながらお話いただきました。そして、日本社会が長くとらわれていた子育てをめぐる言説を翻すに値する大きな変化がこの20年にある。男性稼ぎ手モデルの変革や次世代育成モデルの構築、また、「社会全体での子育て」へのパラダイムシフトが必要とお話いただきました。

平成24年10月2日（火）

#### 地域包括ケアとまちづくり

北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科教授 杉岡直人

高齢化が進展し、認知症高齢者や一人暮らし高齢者が増加する中、介護を必要とする高齢者ができる限り住み慣れた地域で生活を継続するための支援の充実が求められています。講義では、要介護（支援）認定者や高齢者世帯が増加する一方、介護の担い手は不足している中で、地域包括ケアシステムの構築が重要であること、また、地域包括ケアシステムをつくり上げるうえでの課題などについてお話いただきました。また、住民主体で運営している地域食堂の取り組み事例を紹介いただきながら、市民参加の重要性を解説いただきました。



平成24年10月9日（火）

### 介護保険制度のこれまでとこれから

札幌学院大学人文学部人間科学科准教授 新田雅子



今後ますます進む高齢者人口の増加と世帯規模の縮小を考えると、家族だけで担いきれない介護の負担を社会全体で分担し合う仕組みの構築は急務であり、それを実現するためにも「介護の社会化」が求められます。介護保険制度もいくたびかの改正を経て、仕組みも内容も複雑化してきました。講義では、介護保険サービス利用の流れや介護サービスにおける近年の動向など、介護保険制度のこれまでとこれからについて解説いただくとともに、個人と社会の相互信頼、自分らしく「老い」を生き抜く覚悟が大事とお話いただきました。

平成24年10月16日（火）

### 乳利用の民族誌

酪農学園大学農食環境学群食と健康学類教授 石井智美

内陸アジアで伝統的な遊牧生活を営む人々は乳・肉の利用が多いのですが健康です。講義では、モンゴル国、キルギス共和国での調査事例を取り上げながら、遊牧民の乳製品を中心とした食生活や家畜の利用方法、近年は伝統的な乳加工法が省略されてきていることなどについてお話いただきました。また、ビタミンC含有量が豊富な馬乳酒は栄養的にもエネルギー摂取の面からも遊牧民にとって重要な「液体の食べもの」であり、野菜の摂取がほとんどない遊牧民の健康維持に大きく関わっているとお話いただきました。



平成24年10月23日（火）

### 藤田嗣治と愛書都市パリ—花ひらく挿絵本の世紀—

北海道立近代美術館学芸部学芸第二課主任学芸員 土岐美由紀

ヨーロッパにおける挿絵本の歴史は古く、書物としての価値だけでなく、芸術作品として一つのジャンルを形成しています。藤田嗣治も挿絵本制作に精力的に取り組み、1920年代、30点以上の挿絵本を手がけています。北海道立近代美術館にて、特別展「藤田嗣治と愛書都市パリ」を解説いただいた後、各自にて特別展を自由観覧しました。

平成24年10月30日（火）

### 映画は障害者をどう語ってきたか—身体障害から発達障害まで

札幌学院大学人文学部人間科学科准教授 二通諭

1990年代は障害者映画の時代。有名俳優が続々障害者を演じ、障害理解が進みました。2000年代は特別支援映画の時代。ここから何が学べるのでしょうか？講義では、サリドマイド児として生まれた女性の人生を綴った「典子は、今」、障害者映画の歴史を変えたと言われる「レインマン」など数々の映画を取り上げながら、背景にある過酷な障害者の歴史や映画の中の障害者像、また、その変遷から見えるものについてお話いただくとともに、障害者の生活や社会のあり方、障害者問題解決の展望について考えました。



平成24年11月6日（火）

### 正常細胞ががん細胞を駆逐する

北海道大学遺伝子病制御研究所分子腫瘍分野教授 藤田恭之



1981年以降、日本人の死亡率第1位となったがん。年間30万人ががんで亡くなっています。講義前半では、正常細胞とがん細胞との違い、がん発生の分子機序、現在のがん治療法など、がんについての基礎知識を紹介いただきました。講義後半では、実際に周囲の正常細胞ががん細胞を駆逐するムービーを見ながら「がんの社会性」、治療への応用などについてお話いただきました。そして、今すぐにとするのは難しいが、がん治療に結びつけられるよう研究を前に進めていきたいとお話いただきました。

平成24年11月20日（火）

### 大正期の女性作家・田村俊子を中心に

札幌大学法学部法学科教授 山崎真紀子

下町情緒溢れる遊芸的な作風を持つ一方、近代的な自我に目覚めた女性が一個の人間として生きていくうえで抱える葛藤を鋭く描写した作家、田村俊子。ポスト・樋口一葉と目された彼女は、五感を鋭敏に研ぎ澄ませた表現力、官能的な作品で大正初期の文壇で活躍しました。講義では、彼女の生い立ち、人生の転換点となったカナダでの生活、上海で女性総合雑誌『女声』の編集に心血を注いだ晩年など、彼女の生きざまをお話いただくとともに、彼女のフェミニズム小説の代表作『彼女の生活』を通じて女性の恋愛・職業・育児を考えました。



平成24年11月27日（火）

### 韓国の社会と女性

北海学園大学経済学部地域経済学科准教授 辻弘範



近年の「韓流」ブーム。しかし、韓国ドラマだけでは見えない韓国文化があります。講義では、李氏朝鮮王朝が儒教を社会統合の道具として利用していたことや、儒教的統治システムにおいて女性は政治や家族制度から排除されたこと、また、男性中心の儒教社会の周辺には非儒教的な世界が広がっており、女性は両者を行き来する存在とされていたことなどを、映画を見ながら解説いただくとともに、現代の韓国社会で見られる整形や過剰な教育熱の背景には、今でも息づいている「孝」イデオロギーがあることなどをお話いただきました。

平成24年12月5日（水）

### 現在（いま）を知る

北海道新聞社論説委員 川嶋信義

12月4日、衆議院議員選挙が公示されました。民主党分裂や既成政党批判の強まりから、衆院選に臨む政党は乱立しています。講義では、社説を取り上げながら、今回の選挙は非常に複雑でわかりにくい選挙だけれど、この選挙を通じてきちんとこの国の将来を考え、しっかり一票を投じよう。そのためにも、各党がどのような政策を掲げて選挙に臨んでいるのか、また、候補者の人物像を見極めることが大切。有権者として自分たちで考え、自分たちで行動することが大切ではないかとお話いただきました。

